（第三種郵便物認可）

AMDA、岡大提携

感染症対策課程を新設

旅費など補助　支援先に同行

修士、博士各6人募集

世界の災害被災地などで緊急医療支援を続けるNGO「AMDA（アムダ）」（本部・岡山市、菅波茂代表）と岡山大が提携し、新年度に同大学院に感染症対策を専門とする修士、博士課程を新設する。アムダのアジア各地での派遣先で、学生に新型肺炎（重症急性呼吸器症候群＝SARS）などの感染症治療の経験を積ませ、感染症対策の国際的な専門家を育成する。アムダが医療に関する提携を大学と行うのは初めて。

同大は大学院医歯薬学総合研究科に、修士課程「国際医療保健コース」（2年）と博士課程「国際臨床研究コース」（4年）を設け、各6人を募集。出願期間は18日まで。30日に試験を行う。学生は年に2回、1～3か月間ずつ、アムダの支援先に同行する。文部科学省は現地への旅費、滞在費などに3年で1億4000万円を補助する。

国内であまり症例のないマラリアなどの患者を治療することで、知見を養い、感染症封じ込めに力を発揮する研究者を育成する。

菅波代表は「アムダの現場能力と大学の研究能力を組み合わせれば、国際医療保健分野で、日本がより大きな力を発揮できる」と期待。同大の土居弘幸教授も「国際的に通用する感染症の専門家を育て、岡山大をアジアにおける疾病対策の拠点にしたい」と話している。